

③ 経ノ塚古墳

西経塚(下廻)の浜堤上に築かれた直径36m、高さ7mの規模であったと伝えられる円墳が、経ノ塚古墳です。道路工事などで墳丘は完全に崩壊(くずれ)されました。明治45年の発掘調査では家型埴輪・鎧型埴輪・円筒埴輪が発見され、大正12年の土取(どとり)工事の際には長持型石棺(ながもちがせいかん)が出土しており、これらが出土した例としては日本最北となっています。この古墳がつくられた時期は、出土遺物から5世紀と考えられています。

また、家型埴輪・鎧型埴輪・円筒埴輪は、国の重要文化財(じゅうようぶんくわざい)に指定されています。



I-18-③-a

I-18-③-b



I-18-③-c



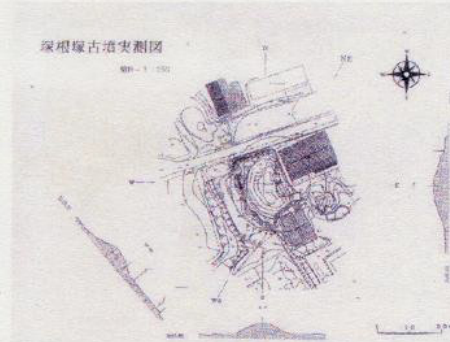
I-18-③-d

④ 塚根塚古墳

塚根(下廻)の浜堤上に築かれた古墳です。古墳の形状がわずかに残る南西側の状況から、半径が約1.2mとなる円墳と推定(すいてい)されています。高さは、約2.2mあります。

この古墳は、保存(ぼぜん)の状態が良くないとはいえ、他の浜堤上の古墳と共に、海岸沿いに伝わってきた古墳文化の究明(きゅうめい)のためにも貴重な古墳です。

I-18-④-a



I-18-④-b



I-18-④-c

⑤ 温南山古墳

名取市南部の3列目となる浜堤上に位置する堀内に造られた帆立貝(ほなてがひ)の形に近い前方後円墳です。円筒埴輪や形象(けいしやう)埴輪が出土しています。

I-18-⑤-a



I-18-⑤-b